

令和元年度 第1回 松野町まちづくり委員会会議録

日時：令和元年10月9日（水）13時00分～15時30分

場所：松野町山村開発町民センター 1階研修室

【委員（出席者）】

氏名	出欠	氏名	出欠	氏名	出欠
井上六廣	出	安西博文	出	岡正司	出
平野耕右	出	井上忠	欠	矢野千津	出
山田史郎	欠	瀧本精二	出	毛利正幸	出
毛利達晴	出	加藤勝恵	欠	川村智子	出
須田正文	出	中森京司	出	—	—
濱田章二	出	谷清	出	—	—
竹内義富	出	井上重人	欠	—	—

～ 次 第 ～

1 開 会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 森の国松野町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価報告書について

(2) 第2次森の国まつの男女共同参画基本計画について

(3) その他

4 自由討議

5 閉 会

令和元年度第1回松野町まちづくり委員会の開催結果について

日時：令和元年10月9日（水）13:00～15:30

場所：松野町山村開発町民センター 1階研修室

参加委員：井上委員、平野委員、毛利(達)委員、須田委員、濱田委員、竹内委員、
安西委員、瀧本委員、中森委員、谷委員、岡委員、矢野委員、
毛利(正)委員、川村委員

参加職員：友岡課長、八十島主事（ふるさと創生課）

内容：概ね次のとおり。

1. 開会あいさつ（中井副町長）
2. 委員長あいさつ
3. 協議事項

(1) 森の国松野町まち・ひと・しごと創生総合戦略評価報告書について

ふるさと創生課が資料に基づき説明を行ったところ、概ね次の意見等が述べられた。

発言者	内容
委員	結婚祝金はいくらもらえるのか。
事務局	10万円。
委員	出産祝金はいくらもらえるのか。
事務局	第1・2子が10万円、第3子が50万円、第4子が70万円、第5子以上が100万円。 特に第3子からはハードルが高いので金額を上げている。また、定住住宅 建築奨励金として100万円を支給する制度を設けている。
委員	定住住宅建築奨励金は、町内にいる人なら誰でも家を建てれば支給の対象 となるのか。
事務局	条件がいくつかあるが、在住者は夫婦どちらかが40歳未満であること、移 住者は3年以内に家を建てることなどを条件としている。
委員	本気で移住・定住者を増やすのであれば子ども一人に100万円。U I ター ンで戻ってきて5年経てばその人1人につき100万円。家族5人で戻ってきた 場合500万円などそれぐらい思い切ったことをしないと人口は増えないと 思う。松野町として思い切ったことをしないと必ず限界がくると思う。
委員長	今の意見を出来る出来ないはおいても皆さんから出た一つの意見として 受け止めてほしい。
委員	強い意見として受け止めてほしい。
委員	都会でも養育費でも何でももっとうしていると聞く、全国どこでもやってい るのと同じ事をしていては魅力が無い。完全に特徴を持って有効な材料と してほしい。
委員	協働のまちづくり事業はどのような活動が該当するのか。

委員長	部落や組ごとに溝を清掃する活動で活用しているほか、団体でも活用している。
事務局	目的が地域活性化や生活支援など公的なもので、個人目的でない場合に活用できるため、具体的な問合せがあれば担当課へ連絡をいただきたい。地域計画事業とは、部落が作成した地域づくり計画に基づく活動に該当する事業のことで補助上限が20万円となっており、それ以外は10万円の補助上限で、活動に必要な原材料や備品などの購入を支援している。
委員	結果に対する見解はどういうことかも考えているのか。具体的に達成するにはどうすればいいかということまで検討して行かなければならないのではないかと。
委員長	この委員会は、今の評価を受けてどうかという意見を出していただく場だと思っている。この場の意見を町にあげて町の方でどうやっていくかという話に進んでいくような形ではないかと思う。
事務局	今やったことの報告をさせていただいたので、その点についての疑問点、質問など、委員会でいただいた意見を元に担当課へ返す。そして、その計画自体が今年見直しの時期を迎えているため、この計画、事業が町で推進していくべきか、効果的なのか、それを含めて分析していきたいので、御意見をいただきそれをこの中に反映させていきたい。
委員	基本目標というのがあるが、それは全然変更されないのか。そのまま進んでいくのか。基本目標とあるがそれはどこから出てどういうことで選んだのか。そういうことが知りたい。
事務局	総合戦略は、平成27年度からの5年計画のため、変更はあり得るがひとまず目標は固定されて実施される。これからは第2期の総合戦略なので、その目標についても見直しをさせていただく。なお、前回と同様だが総合戦略推進本部（役場内の会議）、そして総合戦略推進会議（各団体機関が集まったの会議）そこに諮り目標・内容について協議をして行くようになっており、その場で決定・検討をするようになっている。
委員	まちづくり委員会の位置づけは。第2次計画に向けて目標や項目を変更すべき点の意見を出す場なのか、ただチェックするだけでいいのか。
委員長	委員会としては、委員の皆さんがこの項目について、変更したらどうかという意見があれば、その意見を委員会の意見として提示しなければならないと思う。前回の会議でも時間が足りず、皆さんの意見がこれに反映できていないというのがジレンマになっていると思う。これからどうするのか、今回今までに評価されたものが出てきているので、なぜ出来なかったのか、もっと思い切ったものをしなくてはいけない等の意見を出していけばいいのではないかと。

委員	この委員会は、第2次5カ年計画ができたときだけ開くのか、1年経ってチェックするときだけ開くのか。
委員長	この委員会は、町長よりこの計画について、住民の代表である区長や、手を挙げてなっていた方について、まちづくりのことで提言をいただきたいという会だと思っている。私達が出来るとは、こうした方が良いのではないかとこのところまで、それを町長として専門部会などできちんとしたものに立て直していく。本当は、議会で承認していただいて、この事業は全てやるとすると進めて行きやすい。それを作っていくのがこの委員会ではないか。
委員	総合戦略推進会議で決まったものを、我々が変えるわけにはいけないが、その進捗の中で、幅広く意見を言ってもらいたい。結婚祝金を上げよう、もっと魅力のあるものをすべきだという意見を次の計画の中で検討して見直していくという段取りなのか。
委員長	私としては、この委員会としてはそこまでしたいと思っている。それを踏まえて、委員会として町長へ意見を出していく。そういうことでまとめて進めていきたいと思う。
委員	健康診断は国民健康保険と企業の健康診断と2種類あると思うので、合算するともっと受診率が高いのではないか。
事務局	町が主催する国民健康保険対象のもので、町が呼びかけてその受診率を上げるという目標設定ではないかと思う。
委員長	松野町の健康診断受診率は県で一番と聞いているので、それだけ高いと思っているのだが、その辺はどうか。
事務局	担当課からの報告、実績値があるので目標が52%ということはその所管の率であり、高い低いについては把握できていないため、算定基礎まではわからない。また、担当課へ確認しておく。
委員長	評価については出ているとおりで確認しましたということで、それに対しての意見は、今ほど出た祝金については思い切ってしたら良いのではないかという意見が出たが、これでまとめて良いか。
委員	それより先に、婚活イベントに力を入れるべきではないか。20年程前に第1回目を森の国ホテルで行った記憶があるが、参加者は少ないし。出産祝金とっている場合ではない。
委員	もっとPR方法を考えるべき、イベントに参加する魅力が必要、回覧を回したのでは、若い子は見ないのではないか。今までの取組が問題であって、本当に一組でも増やすにはどうすべきかを考えなければならないと思う。

委員長	今の若い人の意見がなかなか拾えないという現実もあると思う。こういう祝金があるよと思いついて知らせる事は出来るが、婚活等についてはそれぞれの考え方もあり難しいのかも。お世話をする人も減っているのも事実。若者の積極性もないのかも。
事務局	イベントをしても集まらないのも事実。お見合いパーティをしますといわずクルージングや体験など自然型でと努力しているが、女性が集まらない。松野町内だけでくっつけようというのは難しいので、昨年度から宇和島、鬼北、愛南、松野と広域的に呼びかけているが、それもうまくいっていない。何かやり方を考えなければいけない。それが何なのかが課題。結婚の意識が低いのも時代なのかも。
委員	空き家について、松野にも100軒以上の空き家があると聞いた。その空き家をリノベーションして、こういう所があつてこんな素敵なおところに住めますよなどそういう方面からも押していくべきではないか。子どもが戻ってきててもすぐに住めず、結局定住住宅に入るため地元に戻れないなどの条件不足。そういう住まいのサポートも必要ではないか。
委員長	よそから来てくれた人の定住を目指すには一つの事だけでなく、いろいろな事につながりを作っておかないとなかなか難しい。他所では空き家を改造して300万円までで、200万円を貰って100万円を自分で払う。そうすればその家は自分のものになるというところがあるらしい。具体的にそういう事をしているところもあるが、松野町としてそれをするとうなるだろうと言うところもある。そうすると、仕事はどうなるかというところが重要になってくる。例えば、協力隊が7人来てくれているが、その7人が定住してくれるかという、出来ない状況が沢山ある。仕事がない、どうしたら仕事を貰ってそこで生活できるのかということがあると思う。そういう事に相談に乗り、組み立てていかないと、若い人たちが入ってきててもすぐに出て行ってしまふ事になる。自分の子ども達が帰ってこようと思つても出来ないというのが現状。それをどうすれば良いのか、こうしたらどうかという色々な提案をこの会から出していけば良いと思う。
委員	協力隊が松野町に来たときは、松野町に定住したいという強い意志で来られているのか。
事務局	現在は2通りある。1仕事を持って定住したいという人と、定住は出来ないが、任期の3年間に地域活性化に尽力したい。こういう事をしたいという方も受け入れている。
委員	定住を視野に入れてきている人は、概ね定住できているのか。
事務局	5~6割。定住して貰った方もいるが、自分の夢などが合わずに去る方もいる。現在、相談しながら模索中である。

委員	松野町に定住したいと思っている人達に対してどうやったら、その高いハードルを超えられるのか、案は見つからないがいつも考えている。
委員	(協力隊に対して) 3年間の後の家のお世話をしたり、補助金を出したりという制度はないのか。
事務局	家の方は空き家の調査をした結果、紹介できるものはしていく。また、協力隊制度の中で3年間努めて、事業をするに当たって一定の支援金を出す制度もあるが、それが希望と合うかは分からないのでこれからも検討していく必要がある。
委員	商工会では人手不足、協力隊では仕事先がない。そこでうまく重なるのではないか。お互いにその状況が分かっているのでは。マッチングなど出来たらよいのではないか。
委員長	進めていただければと思う。事務局長、指導員、協力隊で一度だけ話した事があると聞いた。是非、協力隊の人達に自分達から会って、話をしながら進めていったらいい。是非そういう情報も伝えていくべき。ここまでに出了意見を会の意見として提出したいと思う。

(2) 第2次森の国まつの男女共同参画基本計画について

ふるさと創生課が資料に基づき説明を行ったところ、概ね次の意見等が述べられた。

発言者	内容
委員	LGBTの関係のことは入っていないのか。
事務局	ジェンダーフリーはあるがLGBTは入っていない。
委員	男性の育児休暇は松野町の企業の中で、男性の育児休暇がとれるところ自体がないのではないか。かけ声だけになってしまうのではないか。
委員	松野町では実家があり子どもの面倒は任せることができる家庭が多いのでは。

4. 自由討議

発言者	内容
委員	自主防災組織について、去年災害に遭ったが、自主防災組織は各地域で機能しているのか。
委員	目黒のある地域は下を水路が通っていてかなり水が出る、自分が区長になってからはその家に電話連絡したり、実際にそのお宅に行って避難してほしいと伝えたりしている。あとは部落の役員さんを通じて連絡して貰っている。自主防災組織の確認を2~3年に一度はしないとイケないなど話している。
委員	松丸部落では、毎年自主防災組織名簿の見直しを組長さんにチェックして

	<p>いただいている。問題は避難場所。各部落で集まる場所は決まっているものの、大雨の時と地震の時とでは状況が変わるので、もう一度、災害時の避難場所は見直すべきではないかと思う。</p>
委員	<p>発行している延野々新聞にこういう事があつたら中学校へと回覧した。自主防災組織は5～6年前に作られたけど、その後整備できていない。</p>
委員	<p>班長会を年に1回必ず開催して意識付けをしている。その際に班ごとの区域の世帯名簿の確認も行っている。今年、自主防災訓練の炊き出し訓練を計画していたが、天候の都合で出来なかった。会議を持つ動きはしていた。中には自主防災役員になっているが知らなかったという方もいた。部落総会に自主防災組織の表も添付し、避難場所などの話も総会でしている。自主防災会の開催は、活発な活動ではないが、年に1回は意識付けのため行っている。防災の補助金を活用して、2年前に各集会所に消火器を配付。去年と今年の事業でシガーソケット用のインバーター、投光器を10基購入して集会所に配備している。</p>
委員	<p>組織的には、区長が代表、会計が副代表、その他に防災士が3人。各組長が班長、各組で5人が救護係、情報係などの係を決めている。富岡の自主防災のあり方は、富岡が孤立したときに発揮することだと思っている。自分が何になっているか知らないということがないように毎年組の常会にかけて貰って確認、念押しをしている。</p>
委員	<p>人数が少ないので形だけの自主防災になっているが、実際に動いてということは難しいと思う。何かをしないといけないと思いつつなかなか動けない。</p>
委員	<p>自主防災組織のマニュアルはあるが、全然使えていない。梁瀬は誰が誰を助けに行くかということを決めてはいるが、いざそうなるとその時家にいない人もいるのでうまくいかないと思う。来年は、松野町の交付金で孤立する地域に発電機を準備しようと思っている。</p>
委員	<p>組織はあり役割は振り分けている。</p>
委員	<p>消防団は災害時抜けてしまうので、地域に残るのは知識の少ない方が多い。延野々の消防のメンバーは半数以上が役場職員のため実働部隊が少なくなる。そういう事も踏まえて名簿を作る必要がある。</p>
委員	<p>マニュアルも大切だが、みんなで声を掛け合う事も大切だ。</p>